科目名	臨床医学講座Ⅰ				
科目名(英)					
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	松木直人・今山隆士・松崎哲治
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	理学療法士として病院で勤務
対象学科・学年	理学療法学科　昼間部3年				
授業概要	国家試験の基本科目である臨床医学の8科目(臨床心理学・精神医学・整形外科学・神経内科・内部障害・病理学・リハ医学・小児科学)について、グループワークを通してお互いに学び合いながら理解を深める。専門用語を理解し、病態のイメージと、その解剖と結び付けながら応用にも対応できる思考力を養う。				
授業形式	講義:　〇	演習:　〇	実習:	実技:	※ 主たる方法:〇　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
〇	〇				精神疾患(統合失調症・気分障害など)の病態を説明できる。
〇	〇				整形疾患(骨折・変形性関節症・リウマチ・脊損)の病態を説明できる。
〇	〇				神経内科疾患(脳卒中・変性疾患)の病態を説明できる。
〇	〇				内科疾患(循環器疾患・呼吸器疾患)の病態を説明できる。

テキスト・教材 参考図書

1) PTOT国家試験必修ポイント2023　専門基礎分野(臨床医学)

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	精神医学・臨床心理①(防衛機制と心理療法)	講義とシェア学習
2	精神医学・臨床心理②(心理検査)	講義とシェア学習
3	精神医学・臨床心理③(統合失調症)	講義とシェア学習
4	精神医学・臨床心理④(気分障害)	講義とシェア学習
5	精神医学・臨床心理⑤(認知症・その他の精神疾患)	講義とシェア学習
6	整形外科・神経内科①(骨折・変形性関節症)	講義とシェア学習
7	整形外科・神経内科②(関節リウマチ)	講義とシェア学習
8	整形外科・神経内科③(脊髄損傷)	講義とシェア学習
9	整形外科・神経内科④(脳血管障害・画像所見)	講義とシェア学習
10	整形外科・神経内科⑤(高次脳機能障害)	講義とシェア学習
11	整形外科・神経内科⑥(変性疾患・脱髄疾患)	講義とシェア学習
12	病理・内科①(創傷治癒・炎症・腫瘍)	講義とシェア学習
13	病理・内科②(循環器疾患)	講義とシェア学習
14	病理・内科③(呼吸器疾患)	講義とシェア学習
15	小児・リハ医学(発達・小児疾患)	講義とシェア学習

評価方法

(1)定期試験(筆記)を実施する。
以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験(筆記)	◎	◎				50%
定期試験(国試形式)	◎	◎				50%

履修上の注意

科目名	臨床医学講座Ⅱ				
科目名（英）					
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	松木直人・今山隆士・松崎哲治
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	理学療法士として病院に勤務
対象学科・学年	理学療法学科　昼間部3年				
授業概要	国家試験の専門科目である基礎理学療法学の3科目（評価学・基本介入手段・義肢装具）について、グループワークを通してお互いに学び合いながら理解を深める。専門用語を理解し、病態の評価からアプローチまで、応用にも対応できる思考力を養う。				
授業形式	講義：　○	演習：　○	実習：	実技：	※　主たる方法：○　その他：△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				理学療法基本評価の方法とアセスメントについて説明できる。
○	○				運動療法の適応と方法について説明できる。
○	○				物理療法の適応と方法について説明できる。
○	○				ADLの評価・指導について説明できる。
○	○				義肢装具の名称・適応について説明できる

テキスト・教材 参考図書

1）PTOT国家試験必修ポイント2023　基礎PT学

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	評価①（ROM・形態測定）	講義とシェア学習
2	評価②（MMT）	講義とシェア学習
3	評価③（MMT）	講義とシェア学習
4	評価④（ブルンストローム・その他の神経学的評価）	講義とシェア学習
5	評価⑤（アセスメント）	講義とシェア学習
6	評価⑥（疾患別評価）	講義とシェア学習
7	評価⑦（まとめ）	講義とシェア学習
8	基本介入手段①（運動療法　伸長訓練・筋力増強）	講義とシェア学習
9	基本介入手段②（運動療法　リスク管理その他）	講義とシェア学習
10	基本介入手段③（物理療法　温熱）	講義とシェア学習
11	基本介入手段④（物理療法　電気）	講義とシェア学習
12	基本介入手段⑤（ADLの評価　FIM/BI）	講義とシェア学習
13	基本介入手段⑥（ADLの指導）	講義とシェア学習
14	義肢装具学①（下肢装具）	講義とシェア学習
15	義肢装具学②（上肢・体幹装具）	講義とシェア学習

評価方法

(1)定期試験（筆記）を実施する。
以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、A（80点以上）・B（70点以上）・C（60点以上）・D（59点以下）とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験（国試形式）	◎	◎				100%

履修上の注意

科目名	臨床医学講座Ⅲ				
科目名(英)					
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	松木直人・今山隆士
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	理学療法士として病院に勤務
対象学科・学年	理学療法学科　昼間部3年				
授業概要	国家試験の専門科目である疾患別理学療法治療学の6科目(中枢・脊損・骨関節・内部・神経筋・小児)について、グループワークを通してお互いに学び合いながら理解を深める。専門用語を理解し、症例の評価からアプローチまで、応用にも対応できる思考力を養う。				
授業形式	講義:　○	演習:　○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				中枢神経障害の評価・理学療法について説明できる。
○	○				骨関節障害の評価・理学療法について説明できる。
○	○				内部障害の評価・理学療法について説明できる。
○	○				神経筋障害の評価・理学療法について説明できる。
○	○				小児発達障害の評価・理学療法について説明できる。

テキスト・教材 参考図書

1) PTOT国家試験必修ポイント2023　疾患別PT治療学

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	中枢神経障害①(脳血管障害)	講義とシェア学習
2	中枢神経障害②(高次脳機能障害)	講義とシェア学習
3	中枢神経障害③(その他の中枢神経障害)	講義とシェア学習
4	脊髄損傷①(評価)	講義とシェア学習
5	脊髄損傷②(残存レベル別障害)	講義とシェア学習
6	脊髄損傷③(残存レベルとADL・装具・補助具)	講義とシェア学習
7	骨関節障害①(骨折)	講義とシェア学習
8	骨関節障害②(変形性関節症)	講義とシェア学習
9	内部障害①(心電図・心疾患)	講義とシェア学習
10	内部障害②呼吸機能評価・呼吸器疾患)	講義とシェア学習
11	内部障害③運動負荷試験・エネルギー代謝)	講義とシェア学習
12	神経筋①(パーキンソン病)	講義とシェア学習
13	神経筋②(多系統萎縮・変性疾患)	講義とシェア学習
14	小児①(脳性麻痺)	講義とシェア学習
15	小児②(脳性麻痺以外の疾患)	講義とシェア学習

評価方法

(1)定期試験(筆記)を実施する。
以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験(国試形式)	◎	◎				100%

履修上の注意

科目名	国家試験セミナー				
科目名（英）					
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	松岡美紀・峰岡哲哉・仲吉功治
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	理学療法士として病院に勤務
対象学科・学年	理学療法学科　昼間部3年				
授業概要	国家試験の基本科目である基礎医学の3科目（植物機能・動物機能・運動機能）について、グループワークを通してお互いに学び合いながら理解を深める。専門用語を理解し、イメージを絵や図にすることで、応用的な問題にも対応できる思考力を養う。				
授業形式	講義：　〇	演習：　〇	実習：	実技：	※　主たる方法：〇　その他：△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
〇	〇				植物機能（循環・消化器・呼吸器）の基本解剖と機能を説明できる。
〇	〇				動物機能（中枢神経・末梢神経・運動機能）の基本解剖と機能を説明できる。
〇	〇				運動機能（骨・関節・四肢の筋）について基本解剖と機能を説明できる。
〇	〇				正常歩行やバイオメカニクスについて基本原理を説明できる。

テキスト・教材 参考図書

1）PTOT国家試験必修ポイント2023　専門基礎分野（基礎医学）
2）PTOT基礎固め　ヒント式トレーニング　基礎医学編

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	オリエンテーション	国家試験とは？国家試験学習の心構えなど方法について
2	植物機能①（循環器系）	講義とシェア学習
3	植物機能②（消化器系・泌尿器系）	講義とシェア学習
4	植物機能③（呼吸器系）	講義とシェア学習
5	植物機能④（代謝・内分泌系）	講義とシェア学習
6	動物機能①（中枢神経）	講義とシェア学習
7	動物機能②（末梢神経）	講義とシェア学習
8	動物機能③（骨格筋）	講義とシェア学習
9	動物機能④（感覚）	講義とシェア学習
10	運動機能①（骨）	講義とシェア学習
11	運動機能②（関節）	講義とシェア学習
12	運動機能③（上肢関節・筋）	講義とシェア学習
13	運動機能④（下肢関節・筋）	講義とシェア学習
14	運動機能⑤（脊柱・体幹の筋）	講義とシェア学習
15	運動機能⑥（歩行・バイオメカニクス）	講義とシェア学習

評価方法

(1)定期試験（筆記）を実施する。
以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、A（80点以上）・B（70点以上）・C（60点以上）・D（59点以下）とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験（筆記）	◎	◎				50%
定期試験（国試形式）	◎	◎				50%

履修上の注意

科目名	総合臨床実習Ⅱ				
科目名（英）	Comprehensive Clinical Education Ⅱ				
単位数	9単位	時間数	405時間	担当者	理学療法学科教員
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務
対象学科・学年	理学療法学科　昼間部　3年				
授業概要	医療人、また理学療法士としての資質を養うことはもちろんのこと、多用な患者を体験し、診療参加を行いながら理学療法における情意領域、認知領域および精神運動領域を学び、治療及び経過観察の解釈ができる事を目的として実施する。				
授業形式	講義：　△	演習：　○	実習：　○	実技：　○	※　主たる方法：○　その他：△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○			○		臨床の現場で実践することを通し、保健・医療・福祉に関する態度を身に付け行動できる。
	○	○	○		実習指導者からの助言・指導を基に、多くの検査・測定の機会から基本的な知識・技術を向上できる。
	○	○	○		具体的な治療場面を経験し、経過を追いつつ修正・補足・変更について解釈し、段階的に実践できる。

テキスト・教材 参考図書

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1〜15	・臨床実習Ⅱ事前セミナー：2022年6月27日（月）～7月1日（金） 診療技能練習を学生間で実施 国家試験問題を利用した知識面の整理 ・臨床実習Ⅱ：2022年7月4日(月)～9月3日(土)の9週間 ※施設の就業規定に応じて9週間実施(5日/週を基本とする) ・臨床実習Ⅱ事後セミナー　：2022年9月12日（月）～9月17日（土） 各施設で学んだ事、担当症例のまとめなどを作成し、発表会を実施 OSCE実施	

評価方法

・臨床実習Ⅱ事前セミナー：事前OSCEおよび実力テストなどを実施
・臨床実習：実習状況報告書
・臨床実習Ⅱ事後セミナー：症例発表会とOSCEを実施
成績評価基準は上記成績を総合的に判定して、A（80点以上）・B（70点以上）・C（60点以上）・D（59点以下）とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
実習状況報告書	◎	◎	◎	◎		60%
事前セミナー	◎	◎	◎	◎		20%
事後セミナー	◎	◎	◎	◎		20%

履修上の注意

科目名	地域包括ケア実習				
科目名(英)	Community-based comprehensive care Education				
単位数	1単位	時間数	45時間	担当者	理学療法学科教員
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務
対象学科・学年	理学療法学科　昼間部　3年				
授業概要	地域で生活する人々に対する保健医療福祉活動の実際について、多職種連携 / 協働によるチームアプローチの支店から学ぶとともに健康に寄与する理学療法士の役割を理解する。 また、地域で生活する人々の健康レベルや健康課題に応じた地域包括ケアの意義を学ぶとともに、将来の地域ケアシステムのあり様を考える。				
授業形式	講義:　△	演習:　○	実習:　○	実技:　○	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○		○		地域で生活する人々に対するチームアプローチの実際を理解することができる。
○	○		○		地域で生活する人々に対する理学療法士のケアマネジメントの実際について理解できる。
○	○		○		地域で生活する人々の健康レベルや健康課題に応じた地域包括ケアシステムについて学ぶことができる。
○	○		○		実際の活動を手がかりに将来の地域ケアシステムのあり様を考えることができる。

テキスト・教材 参考図書

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8	・地域包括ケア実習:2022年9月5日(月)～9月10日(土)の1週間 ※施設の就業規定に応じて1週間実施(5日/週を基本とする)	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

評価方法

・地域包括ケア実習:実習状況報告書
成績評価基準は上記成績を総合的に判定して、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
実習状況報告書	◎	◎	◎	◎		100%

履修上の注意